

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月7日

【評価実施概要】

事業所番号	3071200830		
法人名	社会福祉法人 皆楽園		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	和歌山県岩出市山591番地 (電 話) 0736-69-3552		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年4月8日	評価確定日	平成20年5月21日

【情報提供票より】(平成 20年3月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.85 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,800 円	その他の経費(月額)	330 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要(平成20年3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.6 歳	最低 78 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	榎本医院 西歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県下でも有数の大型社会福祉法人が運営するグループホームで1階にデイサービスが併設されています。広いフロアの一隅にキッチンがあってその前面にテーブルやソファが配置されており入居者と会話を楽しみながら調理ができる造りになっています。理念に謳われている「誰もが利用したくなるホーム」をモットーに管理者、職員が温かみのある笑顔で接し、会話があふれているホームです。ケアについては意思表示が困難な方の思いを、日頃の様子等を通じて把握し職員間で共有しています。家族と利用者との距離が離れない工夫もされていて、利用料はあえて毎月ホームへ持参してもらっていたり、日々の様子や健康状態を毎月丁寧にお便りにしたためて送られています。家族、職員がより連携を密にして入居者を支援されているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	課題であった栄養士による食事内容のチェックを定期的に受けています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価については職員全員がそれぞれに自己評価を行い、管理者が職員の思いを集約しまとめました。自己評価するなかで評価の意義が理解され、ケアの振り返りとなりました。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	家族、市役所職員、民生委員、区長、法人内職員が参加する運営推進会議では、ホームからは活動報告、参加者からは質問や意見、要望を受けサービスの向上に活かせるように努めています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時には暮らしぶりや健康状態を伝え、金銭出納帳へのサインをいただいています。また毎月、請求書発行時に日常の様子を個別に丁寧に伝えていきます。利用料もあえて持って来てもらうようにしており、面会時のふとした家族のつぶやきや、利用者にかかる家族の声を察知するようにしています。運営推進会議で意見、不満等を話せる機会を持ち職員間で話し合いサービスに反映させています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に入会しており、散歩に出かけた折には積極的にあいさつ、声かけを心がけています。地域の夏祭りにも参加させていただいたり中学生の体験学習の受け入れをして地元との交流に努めています。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型をより意識して「地域の中で生き生きと、共に笑顔で暮らす」の理念を法人3つのグループホームの職員で作りあげている。玄関やリビングの目につきやすい場所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	誰もが利用したくなるホームを念頭に置きながら日々のケアやミーティング時に理念について話し合う機会を持ち、ケアの統一につながるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、散歩に出かけた折には積極的にあいさつ、声かけを心がけている。地域の夏祭りにも参加させていただいたり中学生の体験学習の受け入れをして地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点については職員と話し合いながら取り組んでいる。自己評価については評価の意義をよく理解しており職員全員が白紙の自己評価票に記入し会議で検討、思いを管理者が集約している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、市役所職員、民生委員、区長、法人内職員が参加する運営推進会議では、ホームからは活動報告、参加者からは質問や意見、要望を受けサービスの向上に活かせるように努めている。		

グループホームのぞみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは事業所として密な連携は図れていないが、随時電話等で相談している。	○	市担当者とは出来るだけ行き来する機会をつくり、市と共にサービスの質の向上に取り組まれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には利用者の暮らしぶりや健康状態を伝え、金銭出納帳へのサインをいただいている。また毎月、請求書発行時に日常の様子を個別に丁寧に伝えている。面会の機会となるように利用料もあえて持って来てもらうようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時のふとした家族のつぶやきや、利用者にかかる家族の声を察知するようにしている。運営推進会議で意見、不満等話せる機会を持ち職員間で話し合いサービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動は最小限に留められており、職員同士も助け合いながら離職を防ぎ、馴染みの職員でのケアがされている。新しい職員が入る場合はしばらく日勤帯で馴染んでもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡会や、法人内外の研修に出来るだけ多くの職員が参加できるように働きかけ、研修後はミーティング時に伝達研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県のグループホーム連絡会に入っており、研修や相互実習で交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		

グループホームのぞみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの開始ではなく、本人、家族にホームを見学していただき、他の利用者や職員と一緒に過ごす機会を持つ、また、入居後も外泊を頻繁にさせていただき、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中では食事作りや洗濯物たたみなど一緒にやりコミュニケーションを図っている。特にお寿司作りや魚のさばき方等は教わる事が多くある。日頃便秘がちな方からは散歩を希望され誘い合わせて行くこともあり、また意思を明確にされない入居者の声には特に耳を傾けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の言葉や行動から本人の希望や思いを把握し、家族からも情報を得るように努めている。意思表示のはっきりしている方を優先してしまうので、特に注意している。困難な場合は日頃の様子などよく観察している。アセスメントは介護のためだけでなく、生活を支えるためと考え情報を収集し記録している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ケース会議を職員全員で行い、モニタリングや意見交換で本人に合った介護計画が立てられている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の目標達成は毎月のケース会議で把握しており、利用者の状態変化等、職員で情報を共有し家族、本人の要望を取り入れ、その都度見直しを行っている。		

グループホームのぞみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院介助や、希望の理美容院への送迎等、要望に応じて個別に柔軟な支援を行っている。また、週に3回リハビリに行く人の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する入居前からのかかりつけ医を継続されており、受診や通院は希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う説明は契約時にしており、家族と医師と相談しながらホームが対応し得る最大限のケアについて話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう言葉掛けに配慮している。個人情報については事務所内に適正に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きる時間や夜寝る時間に決まりはなく、一人ひとりの状態にあわせ、その人らしい生活を過ごせるようご本人を尊重し柔軟に支援している。		

グループホームのぞみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、食材を見て利用者の声を反映して決めており、テーブルを囲んで食材を切るなど、出来る利用者と職員が一緒になって準備している。皆で調理した食事を職員も同じテーブルにつき会話を交わしながら楽しいひと時を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基本としており、あまり入浴を好まない利用者には対応を工夫し、チームケアを行い楽しい入浴になるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力や得意なことを活かし食事作りや、洗濯物たたみ、掃除など日々の生活の中で出来ることをしていただいている。また読書や手芸等の趣味を楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調、希望に応じ散歩や買物を一緒にしたり、併設のデイサービスに協力していただいて車を借りドライブにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に入出入り出来るようにしている。出かけられる方には、服装や足元に注意し、さりげなく付き添うようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回消防署の協力を得て利用者と共に避難訓練を行い避難経路の確認を行っている。また消防設備の使い方や点検の指導も受けている。地域の人々の協力の働きかけはできていない。	○	地域の協力を得られるように運営推進会議で議題として話し合われてはいかがでしょうか。

グループホームのぞみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に法人の栄養士に栄養バランスのチェックをしてもらい指導を受けている。一人ひとりの食事量を記録し、状態に合わせた水分量の確保がされている。朝食には水分摂取も考慮して食べやすい茶粥が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は大変広くりビング等には季節感が感じられる手作りの小物が飾られている。食事作りの匂いや音楽、季節が感じられる食べ物で生活感もあり、落ち着いて暮らせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や小物を持ってきてもらっている。冷蔵庫や家族の写真などを持ってこられていてその人らしく落ち着いて過ごせる居室になるように支援している。		